

テーマ

脂質検査

監修

帝京大学医学部 内科学 教授 木下 誠 先生

Q 8



アルコールの脂質への影響はどの程度、どのくらいの期間続きますか？

A 8



アルコール飲用により増加するリポ蛋白の主体はVLDLです。従って増加する脂質はトリグリセライド (TG) が中心となります。アルコール飲用量と増加するTGの関係は個人差が非常に大きく、アルコールの影響は肥満者や脂質異常を呈している人に強く出ることが報告されています。TGの上昇はアルコール摂取後1時間程度で出現すると報告されており、その影響は数時間程度持続するとされています。過剰に飲酒した場合、翌朝の空腹時TG値が1,000mg/dLを超える場合も珍しくはありません。逆に同様の条件でも全くTG値に影響を認めない人もいます。

また多量飲酒者ではまれにコレステリルエステル転送蛋白 (CETP) が抑制され、著明な高HDLコレステロール (HDL-C) 血症を示すこともあります。このような高HDL-C血症は1-2週間の禁酒により正常化することが知られています。

表1. 飲酒による血清脂質の変動 (例)

	禁酒前	2週間禁酒後
TC	282mg/dL	203mg/dL
TG	1328mg/dL	208mg/dL
HDL-C	35mg/dL	42mg/dL